3学年道徳通信

絆

青森市立甲田中学校
令和６年
７月１９日（金）
第２号
担当：前田豊子

７月の初めの道徳の時間に、４クラス一斉に、いじめを許さない心について考えました。いじめを巡る事件は現在も社会問題となっています。最近では、女子高生がいじめの延長から命を奪われるという痛ましい事件も起きています。私たちは人に対する差別や偏見を絶対に許さない心を忘れてはいけないと思います。

【資料について】　「卒業文集最後の二行」　作　一戸冬彦

小学校時代にいじめを繰り返したという、人間として許されない行為を、30 年以上経た今でも深い心の傷として後悔する懺悔の手記である。筆者「私」は、いじめを繰り返した相手の卒業文集最後の二行に書かれた、切なさ、悔しさを知って衝撃を受けた。

このお話は、青森県が舞台となっている。

道徳の授業を終えて考えたこと

○世界には、いろいろな人がいるので、自分の意見を他人に押し付けず、他人の意見もきちんと自分に取り入れ、他人を尊重する気持ちが大切だと、考えながら生きていきたい。（１組）

○これまで、あまり他の人がどう思うのかを考えていなかったので、これからは、自分以外の人のことも、よく考えていきたいと思った。（１組）

○相手が嫌がると思うことや悲しくさせる言葉は発言しない。周りが言っていても、それに混ざらず、止めてあげる。（２組）

○自分が友達と話しているとき、気付かない間に相手を傷つけるようなことを言っていたかもしれないと思ったので、これからは友達に接するときは、相手の気持ちを考えて楽しく話したい。（２組）

○人を傷つけたら自分もずっと後悔することになるから、人のためにも自分のためにも、できるだけ優しく接するようにしたい。（３組）

○「私」のように後悔しながら生きていきたくはないから、後悔するような、人を傷つけることはしない。いろんな人がいるから、その人の悪いところよりも良いところをたくさん見つけたい。（３組）

○今が楽しければ、みたいな考え方をやめる。何でも周りに合わせないで、今何をすることが大切ことか考えながら行動していく。周りから聞いたことを思い込んでみんなに広めない。（４組）

○今までの人生を振り返ったときに後悔しないように、相手が嫌だなと思うことは絶対にしないようにし、周りでいじめのようなことが起こっていたら、傍観者にならずに先生に教え、深刻化しないようにする。そしていつで誰かを助けられる、誰かに手を差し伸べることができるように生きていきたい。（４組）

いじめを決して許さず、人として、集団としてよい行動をしていきましょう。いじめは、いつでも、どこでも起きうることを忘れてはいけないと思います。

● 1952 年にマザー・テレサによって設立された「死を待つ人の家」

マザー・テレサ（アグネス・ゴンジャ・ボヤジュ）

テレサの父は、手広く事業を営む地元の名士であった。カトリック教徒であった父母は信仰心に篤く、貧しい人への施しを積極的に行っていたという。彼女は聡明な少女で、12 歳の頃には将来インドで修道女として働きたいと考えていた。18 歳でアイルランドでロレト修道女会に入り、21 歳の時に修練女としてインドのダージリンに行く。そしてカルカッタの聖マリア学院で地理と歴史を教え、34 歳の時には校長に任命されている。上流階級の子女の教育にあたりながらも、テレサはいつも貧しい人々のことが気になっていた。2 年後、ダージリンに向かう汽車に乗っていた際に、「すべてを捨て、もっとも貧しい人の間で働くように」という啓示を受け、宗派を問わずにすべての貧しい人のために働く生涯を送った。

ー ー ー ー ー ー ー ー ー　切 り 取 り　ー ー ー ー ー ー ー ー ー

※保護者の皆様へ・・・今年度も保護者の皆様からのご意見や感想をお待ちしております。いただいたご意見や感想は、道徳通信を通して紹介させていただくこともありますので、ご了承ください。（匿名でもかまいません。）